

「瑞月」（あいみずき） 短果枝主体栽培導入手引き（マニュアル）



近年、「幸水」は、暖冬年を中心に花芽の枯死が多発しており、対策が課題となっています。一般的に、短果枝の花芽は長果枝の花芽(腋花芽)より花芽の枯死が発生しにくいとされており、「瑞月」で短果枝主体栽培が可能であれば、今後、発芽不良の問題がさらに大きくなった場合、「幸水」との併用により危険分散を図ることが可能と考えられます。

そこで、短果枝主体栽培に向けた短果枝と長果枝の比較調査と作期の調整のためのシアナミド剤、ジベレリンペースト(以下GAと表記)処理を実施し、注意点等を手引きとしてとりまとめました。

(手引きは、新たな栽培技術等の知見が得られた場合、改訂を行います。)

結果の概要

- 「瑞月」は「幸水」と比べて短果枝の葉芽なし花芽率が低く、維持もしやすいため短果枝主体栽培が可能で、幸水の発芽不良への対応手段となり得る。(3年枝以上は今後検討)
- 「瑞月」の果形は短果枝の方が長果枝よりやや優れる。
- GA処理により「瑞月」収穫期は8～10日前進し、8月上旬からの出荷が可能となる。
- 休眠期にシアナミド剤を散布した場合、1～2日の開花促進効果が見られた。

1 短果枝の維持と葉芽なし花芽率

- 「瑞月」の短果枝は3年枝でも40～50%程度の花芽を維持しており、「幸水」(30%程度)より花芽率が高かった。
- 「瑞月」、「幸水」とともに短果枝は長果枝より葉芽なし花芽率が高かった。「瑞月」短果枝の葉芽なし花芽率は0～28%で、幸水の27～39%に比較して低かった。果そう葉の多少は果実重や糖度に影響を与えるとされており無葉果そのの果実は優先的に摘果される。このことから、「瑞月」は「幸水」よりも短果枝の利用がしやすいと考えられた。ただし、「瑞月」短果枝の葉芽なし花芽率が20%を超える事例が2事例あるため、さらに調査が必要である。

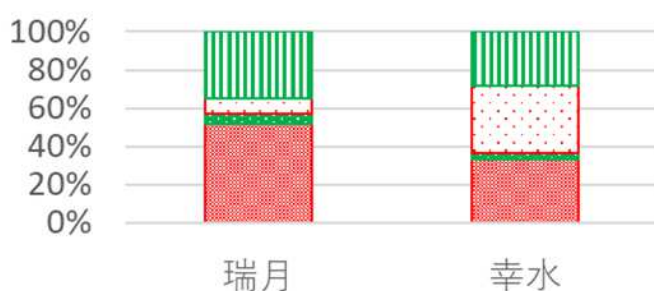


図1 3年枝の花芽率等 (東三河)

■ 花芽 ■ 葉芽
■ 葉芽なし花芽 ■ 新梢発生

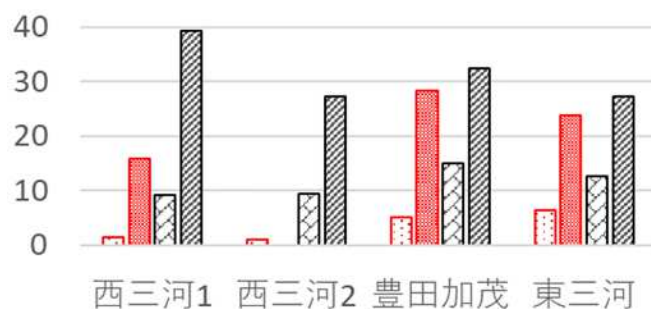


図2 葉芽なし花芽率

■ 瑞月 長果枝 ■ 瑞月 短果枝
■ 幸水 長果枝 ■ 幸水 短果枝

2 満開期

- 「瑞月」は、「幸水」より満開日が1～6日早く、短果枝は長果枝より1日早かった。「幸水」より6日早い事例では、授粉樹の開花とのタイミングがずれるため、「幸水」とは異なる対応が必要と考えられた。
- 休眠期にシアナミド剤を散布した場合、1～2日の開花促進効果が見られた。開花揃いへの影響は判然としなかった。

3 シアナミド剤の散布及びGA処理による収穫期への影響

- 「瑞月」にGA処理すると無処理に比べて収穫が8～10日前進し、8月上旬からの出荷が可能であった。
- シアナミド剤・GA処理は、GA処理のみと比べ、長果枝では平均収穫日で3日早まったが、短果枝では逆に8日遅かった。今回の試験では、シアナミド処理による収穫時期前進効果はないと考えられた。

● 農薬（植物成長調整剤）に関する記述はマニュアル作成時の登録内容に基づいています。使用にあたっては、必ずラベルの登録内容を確認してください。

4 シアナミド剤の散布及びGA処理による果実品質への影響

- シアナミド剤とGAの併用によりGA処理のみよりも糖度が高かった事例が1事例あった。「瑞月」はGA処理による果実肥大効果が高く、果実の肥大に伴って無処理果実より糖度が低くなりやすいと考えられる。今回の調査ではシアナミド剤処理による果実品質の向上効果は明らかではなかったが、GA処理を行う条件下では、シアナミド剤処理により開花が前進し、生育期間が確保されることにより、糖度を確保しやすくなる可能性が示唆された。

5 果形

- 「瑞月」は、「幸水」と比較すると果形が乱れやすかった。
- 「瑞月」の長果枝と短果枝の比較では、短果枝の方が長果枝よりも果形が良い地域が多かったが、その差はわずかであった。

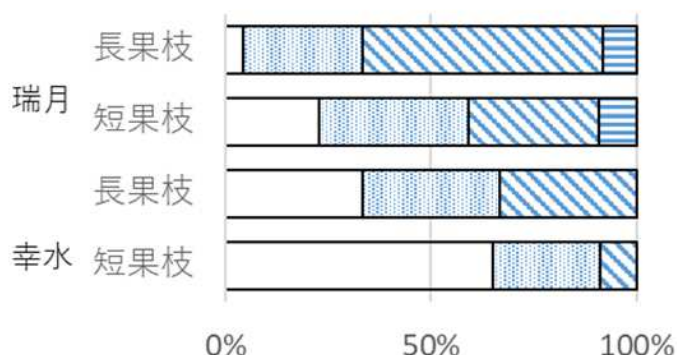
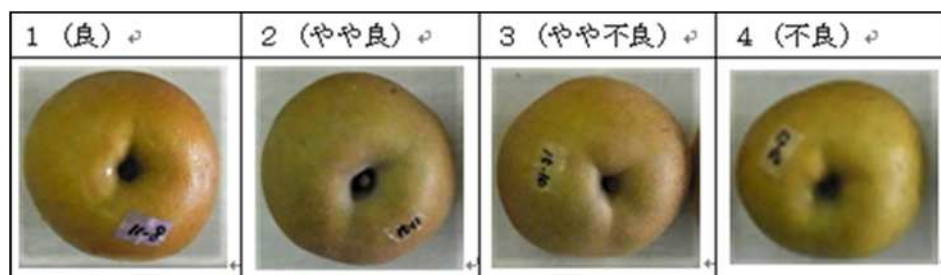


図3 果形の割合（東三河）

□ 良 ■ やや良 ▨ やや不良 ▩ 不良

図4 果形評価基準



6 今後の課題

- 「瑞月」は短果枝の維持は良いが、短果枝からの新梢の発生が多く、樹勢が強いため摘心では対処しきれないと考えられる。今後、誘引による対処を検討する予定である。
- シアナミド剤の休眠期散布とGA処理の併用による糖度確保についても検討したい。

【発行年月】令和5年（2023年） 3月

【編集・発行】愛知県 農業総合試験場 普及戦略部 技術推進室

（電話：0561-62-0085（代表））

本手引きは令和3～4年度生産体制・技術確立支援事業を活用して作成しました。